中野　健太郎（なかの　けんたろう）
（明和）

環境　保健福祉

【不快害虫】ヤスデの大量発生が拡大している

問 **駆除薬剤の配布希望場所の充実等、自治会活動支援を広めること、被害の拡大している地域の南部公民館に薬剤を置くことはできないか。**

部長 駆除薬剤管理責任者を区長から町内会長まで広げる。被害が拡大しているような地域においては、配布場所を検討する。

問 **薬剤散布機も自費購入するなど自治会は必死に対応している。行政、事業者も連携した自主防疫活動の協力の輪を広げてもらいたい。**

市長 市の危機管理に該当する問題。散布機を貸し出して取り組んでもらう、市の応援隊を組むなどする。情報提供と要望する物を言っていただけたら有り難い。

幹を覆うように生息するヤスデ（黒田区）

人口減少・超高齢社会の防災！災害関連死を防ぐために平時にできること

問 **要配慮者宅の家具固定の支援活動状況は。**

部長 コロナ禍以降申込みが少なく、支援団体の高齢化に伴う会員減で、事業継続が困難な状況。

問 **ボランティアをしたいと希望する人たちもいる。家具固定の必要性を訴え、そこにアプローチすることこそ、腕の見せ所では。**

部長 新たな担い手、実施していただくところを見つけていきたい。

問 **災害時に実効性のある避難計画とするための地域調整会議の開催状況は。**

部長 開催実績はない。令和８年度中には現在、約 800 人いる優先度の高い方を対象にした個別避難計画、それ以外の方は調整会議の場でセルフプランを完成させたい。

仲亀　恭平（なかがめ　きょうへい）
（無会派）

市　民

提案！「シニアドライバーにうれしい補助金」

問 **サポカー普及がシニアドライバーの交通事故防止につながると考えるが、富士宮市独自でサポカー補助金制度を導入してはどうか。**

部長 市独自のサポカー補助制度の導入は考えていない。

問 **ブレーキとアクセルの踏み間違いの割合。**

部長 75 歳以上の割合は全年齢平均の 2 倍。

問 **サポカーはどこまで安全なのか。**

部長 衝突被害軽減ブレーキやペダル踏み間違い急発進抑制装置などがシニアドライバーの交通事故防止に一定の効果がある。

問 **国が実施したサポカー補助制度の申請率及び、その効果分析について。**

部長 申請件数や交付率等の公表は無い。国の予算説明において想定数は示されている。

新車	113万件
中古車	8万9000件
後づけ装置	31万9000件

※部長答弁より作成

運転支援装置の普及に結びついたと考えている。

問 **他市町独自で実施しているサポカー補助金制度を調査研究して欲しい。**

部長 現在、静岡県内では「長泉町」「磐田市」が実施していると認識している。実績は年々減少している。すでにサポカーが普及していることが原因だと考える。

問 **家族が心配している。両親や祖父母の交通手段を確保して欲しい。**

部長 次期公共交通計画において「宮バス・宮タク」をさらに利用しやすいカタチに変更する。

問 **サポカー普及啓発運動が交通事故の防止につながると考える。**

部長 「安全運転を心がけてもらう」という啓発こそが第一だと考えている。